

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	島根県教育委員会 担当課：保健体育課 電話番号：0852-22-5423
------	---

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	94校	② 生徒数	16,886人	③ 部活動数	560部活
--------	-----	-------	---------	--------	-------

#### 1.2 地域における現状・課題

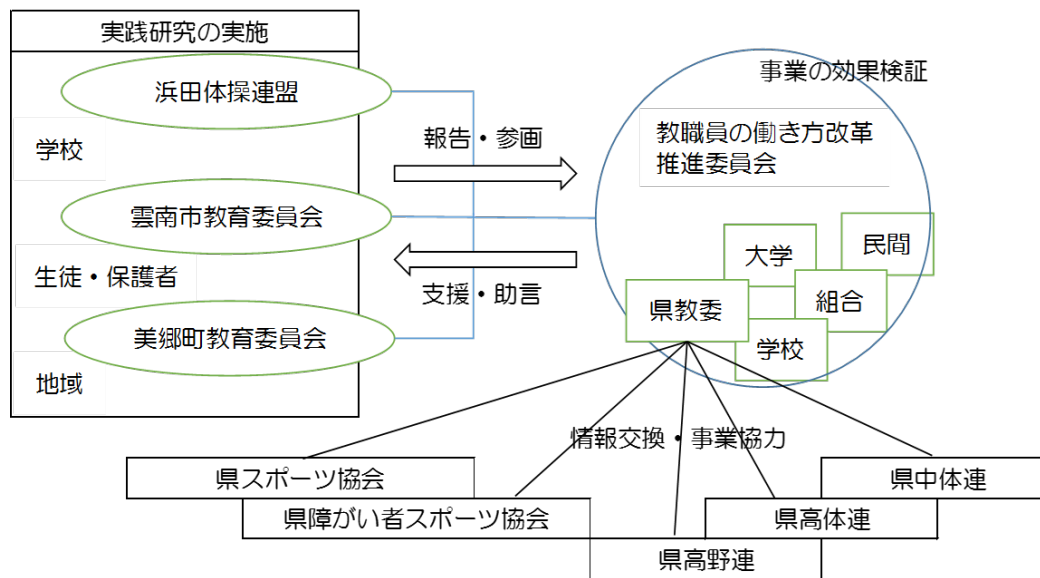
- ・「部活動の在り方に関する方針」に基づき、県内の公立中学校（義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部を含む。）及び県立高等学校（特別支援学校高等部を含む。）の部活動において適切な休養日、活動時間等が設定されるよう、部活動の負担軽減に向けた取組を実施するとともに、県教育委員会働き方改革推進会議において部活動の在り方を検討。
- ・①地域移行の受け皿となる指導者・団体の確保、②専門的な知識・技能を有する教職員の確保、③学校によって生徒が希望する部活動に大きな差が生じる等、課題を抱えている。

#### 1.3 実践研究における取組目標

- ・部活動を地域で支えていくための基盤作りとなる、地域クラブ活動を試行し、地域の指導者等を確保するよう、指導者バンクの整備等を行う。
- ・地域（雲南市・美郷町）において検討委員会等を実施し、部活動の地域クラブ化についての諸課題の洗い出しを行い、持続可能でニーズに合った部活動の在り方について検討を進める。

#### 1.4 実践研究の運営体制

地域運動部活動推進事業推進体制（イメージ図）



### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・雲南市（3回）や美郷町（2回）において検討委員会等を開催し、学校部活動の持続可能性や、実際に地域移行を行った場合の指導者の確保や練習場所の確保など多くの課題が上がった。
- ・学校部活動の持続可能性については、学校関係者へのアンケート調査を実施し、教員自身の意識についても確認を行った。また、指導者の確保については、市で人材バンクを立ち上げ、登録を促すなど積極的な展開を行った。
- ・県として、国の指針が出たのちに各市町村を対象に説明会等を実施した。

### 3. 実践研究の成果と今後の課題

#### 3.1 実践研究での検証から得た成果

・ 働き方改革推進会議において、教職員の働き方の実態として、部活動のある中学校及び高校の時間外勤務は多くなっており、特に負担を感じる業務をアンケート調査したところ、部活動に係る業務は、中学校で 31.4%、高等学校で 37.0%と、ともに最も負担を感じる項目となっており、今後の部活動についての検討を重ねていく必要がある。

・ 働き方改革推進会議の他に、国の指針が出たのちに県が主体となって、各市町村を対象に「地域移行説明会」を 4 回に分けて開催した。県の方針としては、県内各市町村によって状況は異なるため、足並みをそろえて部活動の地域移行を行うことは困難とし、教員の働き方改革の一つの手段として地域移行を捉え、部活動指導員の活用による教員の負担軽減を図ることを進めていくが、市町村として地域移行を進めていくことに対しては必要な情報を提供していくなど市町村に寄り添った形で進めていくことを目標として進めていく。

・ 各自治体においては、中山間地（美郷町）では指導者の確保が難しく、また学校・保護者・生徒など立場が異なると考え方が異なる面もあり、「部活動」の在り方について多角的な視点で検討を深めるきっかけとなった。

地域クラブ活動を試行的に実施した自治体においては、指導者の確保が非常に厳しい現状や、競技選手としてしっかり競技に打ち込みたい生徒や部活動としてのみ競技を行いたい生徒が混在し、クラブ活動としての運営方針の設定が難しい現状が明らかとなった。また、他自治体では、地域クラブ活動が学校の部活動を補完する形で連携して実施することができ、また指導者バンクを作成することで、地域の外部指導者からの多くの登録が得られたため、充実した活動を行い、地域移行へのイメージを持つことができた。

#### 3.2 地域移行における今後の課題と対応

<b>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</b> 教育庁内の各課、スポーツ振興課・県スポーツ協会等と連携し、検討会議（年 4 回を予定）を行い、具体的な地域移行の課題（兼職兼業や受け皿の確保等）の洗い出しを行っていく。	<b>【受け皿団体の確保方策】</b> スポーツ振興課、県スポーツ協会と連携し、各競技団体等へもつないでもらい地域にどのような受け皿があるのかを確認し、市町村との情報共有を重ねて実施していく。
<b>【指導者の確保方策】</b> 部活動指導員についての人材バンクは整備しているが、決まった時期のみに募集をかけ、情報提供を行っているが、来年度以降については、年間随時募集を行い、また併せて地域指導者（県独自・外部指導者）についても募集を行い、地域クラブの指導者となりうるような人材を発掘し、情報提供を行ってきたい。 指導者への研修参加支援等についても検討を行ってきたい。	<b>【困窮世帯への支援方策】</b> 参加者費用負担の価格の設定など、県の検討会議にて様々な部署と連携して気等を進めていく。必要に応じて市町村向けアンケートも実施する。
<b>【地域移行の自走化に向けた方策】</b> 保護者からの負担金を取るなど、持続的な地域移行の形を確立していくための検討を行う。	<b>【地域特有の課題への対応策】</b> 市町村との連絡会議を年 3 回（予定）開催し、各市町村の進捗状況の確認を行うとともに、地域移行の先進地調査や、県・関係団体等による検討会議で検討した、県の支援策や市町村の抱える課題（受け皿や指導者の確保、関係団体等との連携、学校施設等の活用等）の解決方法等を市町村へ展開する。

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	浜田市体操連盟
	担当課： - 電話番号：0855-22-0946

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	9校	② 生徒数	342人	③ 部活動数	17部活
--------	----	-------	------	--------	------

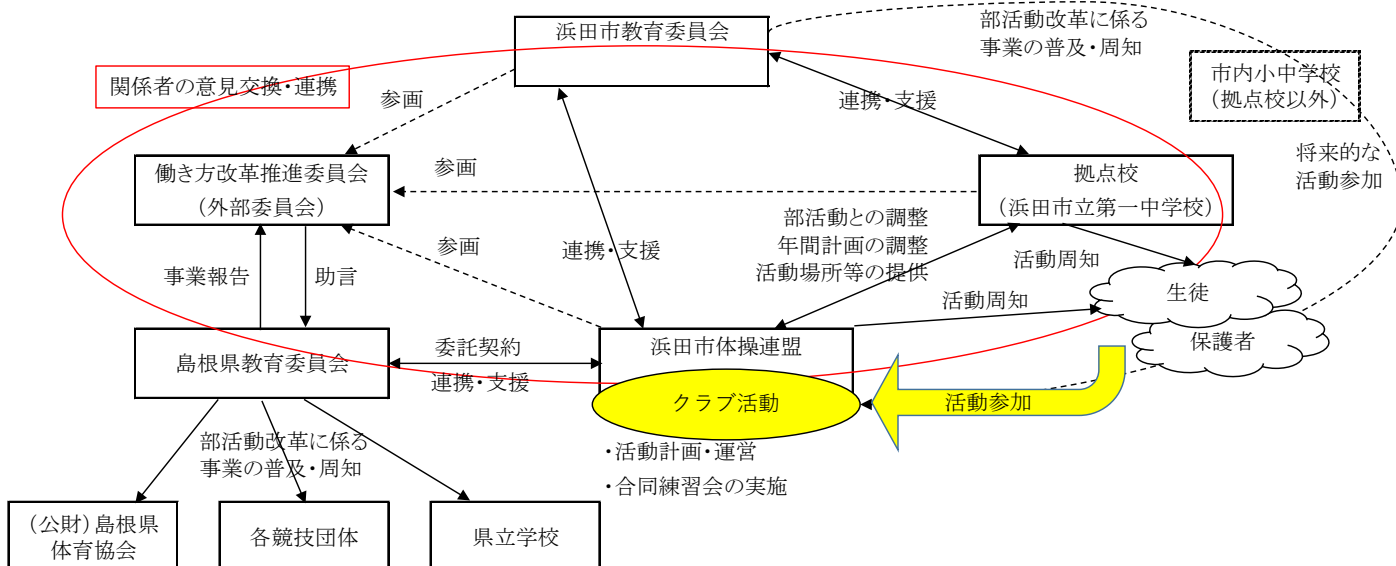
#### 1.2 地域における現状・課題

浜田市立第一中学校では、浜田市中学校部活動ガイドライン（2019年3月・浜田市教育委員会策定）に基づき学校の部活動に係る活動方針を定め、（1）体罰等の根絶、（2）安全管理と事故防止、（3）保護者の理解と協力、を柱として部活動（準部扱い含む）の運営を行っている。専門的指導のできる教員顧問が不足する中で生徒の活動機会の確保と、月あたり平均時間外勤務時間 79.1 時間に及ぶ教職員の負担軽減の両立が課題となっている。また、部活動の地域移行を図る上で、地域活動の参加者に科学的・効率的な指導ができる地域人材を確保・育成し、持続可能な活動を行う仕組みを構築する必要がある。併せて、地域と学校が連携した取組の他部活への普及を進めるために、生徒・保護者へ休日部活動の地域移行について丁寧に周知し、理解を得ていくことが求められている。

#### 1.3 実践研究における取組目標

- ・事業の目標設定、年間計画の策定、進捗管理等について、拠点校・受託団体・市教育委員会・県教育委員会の4者で定期的に意見交換し、事業の推進を図る。
- ・県で教職員の働き方改革について検討する「教職員の働き方改革推進委員会」において、教員の在勤時間の動向を確認し、事業効果の検証と持続可能な部活動の在り方について助言を受ける。

#### 1.4 実践研究の運営体制



### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・拠点校（主に部活動顧問）と浜田体操連盟との意見交換や情報共有。
- ・教員の部活動指導に対する負担や不安感を軽減するための活動方法の確立。

### 3. 実践研究校における取組について

#### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全9中学校のうち、1校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	1部活
③ 種目	体操競技

#### 《主な取組例（1）》…浜田市立第一中学校

① 運営主体	浜田体操クラブ		
② 種目	体操競技	③ 参加者数	7人
④ 活動日	月、水、金、土、日	⑤ 活動場所	島根県立浜田高等学校
⑦ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	浜田市体操連盟に所属の指導者1名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（1人あたり：5,000円/月額）		

#### 3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

- ・ 浜田体操クラブに所属している生徒が多く、土日の活動だけでなく、平日の活動についても充実した技術指導を受けることができた。
- ・ クラブに所属していない生徒についても、浜田市の部活動ガイドラインに沿った形でクラブの時間帯に合わせて活動しているため、短時間ではあるが、充実した技術指導と刺激を受けながら練習することができた。また、もっと上達したいという生徒はクラブに入会することができるため、選手の発掘～育成のシステムが作りやすい。
- ・ 教師は部活動の時間帯のみ参加するが、技術指導に関してはクラブの指導者が行うため、生徒の不安や緊張、悩みに対するサポートを行った。・専門性の高い種目であるため、未経験者の教師が技術指導をするのは難しいため、指導とサポートの分業する指導体制をとることで教師の負担感も少なかった。

#### 3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・ 生徒全員がクラブに所属すると土日だけでなく、平日の活動についても完全に地域に移行することができるが、全員がクラブへの入会を希望しているわけではなく部活動の時間帯のみを希望している生徒もいるため、完全に地域移行をするのは難しい。しかし、教員の技術指導は難しいため、部活動とクラブの時間を調整することで、クラブ指導者の技術指導を受けることができた。
- ・ クラブ所属選手と部活動のみの生徒と一緒に指導をしていただくと、クラブ指導者の負担が大きく指導も不十分になるため、教員がクラブ指導者と情報を交換し、教員ができる技術指導については教員がやるなど、協力して指導を行った。

### 4. 実践研究の成果と今後の課題

#### 4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・ 学校と浜田体操連盟との意見交換や情報共有は十分に行うことができたため、生徒の思いに寄り添った指導体制を構築することができた。ただ、市教委との情報の共有は十分にすることはできなかった。
- ・ 部活動の時間だけで活動したい生徒と選手としてしっかり活動したい生徒がいるため、完全に地域へ移行することは難しいと感じた。また、浜田市体操連盟で今回のような形で指導に当たっていただく方が一人しか確保できないため、今後の地域移行を考えたときには、指導者への負担が大きくなるという懸念がある。今回、浜田市立第一中学校のみの実践研究となったが、他校も同じように実施すると、安全面も考えたときに十分な指導をすることは現状では難しい。体操競技の特性上、器具や技術の発展にともない、過去の指導経験から、安易に指導に携わるといことが難しく、競技として指導できる人材に限られるのが現状である。

#### 4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】	【受け皿団体の確保方策】
【指導者の確保方策】 ・指導者の指導技術の向上に向けた研修会、講習会への参加支援。	【困窮世帯への支援方策】
【地域移行の自走化に向けた方策】	【地域特有の課題への対応策】

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	雲南市教育委員会 担当課：学校教育課 電話番号：0854-40-1072
------	---

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	7校	② 生徒数	917人	③ 部活動数	42部活
--------	----	-------	------	--------	------

#### 1.2 地域における現状・課題

- ・学校規模の格差による生徒が選択できる部活動に大きな差が生じていること・・・そのことが、自分の興味・関心や特性を生かした部活動の選択につながっていないため学校生活が生徒にとっては魅力あるものとなっていないことも考えられる（実際に居住地を変えてまで自分がしたい部活動のある学校を選択するケースも散見される）
- ・少子高齢化のさらなる進展により①については益々厳しい状況になってくるとともに、・・・加えて1校でチームを編成できずに合同チームの編成を余儀なくされる学校および部活動が多数でくる（例）野球、ソフトボール、バレーボール・・・
- ・中山間地ならではの広域な通学区域と公共交通機関の便が悪いために放課後や休日の部活動のための移動には借り上げたバスや保護者輸送に頼らざるを得ない
- ・部活動の指導について専門的な知識・技能を有する教職員の確保がむずかしい 学校へのアンケートでも指導者を地域に求めたい、地域へ活動を移管したいという意向が高い

#### 1.3 実践研究における取組目標

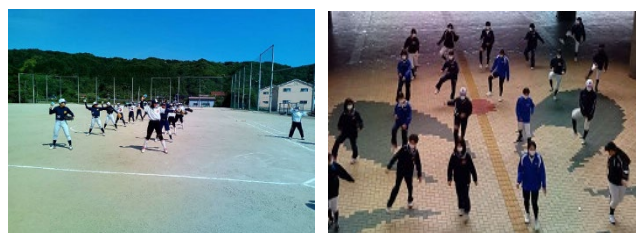
##### ①（休日の）部活動を地域で支える取組を試行する

試行するクラブ活動は A 関連でレスリング、水泳、テニス B 関連でソフトボールの4種目 C はすべてのクラブ活動で共通

- A 市内の中学生が自分の興味・関心および特性生かしたスポーツ活動を選択できる魅力づくり
- B 持続可能なスポーツ活動が保障される魅力づくり
- C 質の高い指導受けることができる魅力づくり

##### ②（休日の）部活動を地域で支える取組の基盤を整備する

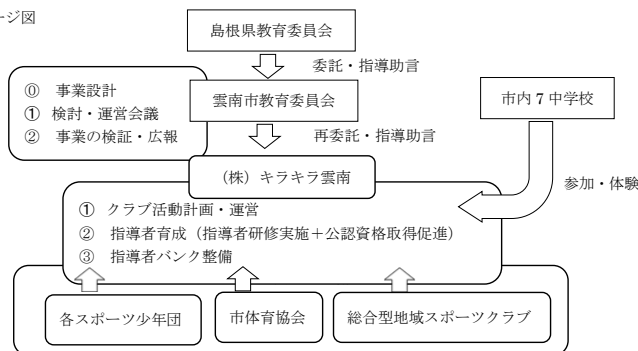
- D 指導者育成（指導者研修実施＋公認資格取得促進）
- E 指導者バンク整備
- F 検討・運営委員会の開催と検証・広報活動（市教委）



写真はソフトボール合同部活動

#### 1.4 実践研究の運営体制

イメージ図



写真は検討・運営協議会

### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

【プラットフォームの構築】事業の委託を通しての「地域文化活動」の統括・調整・推進機関を育成・整備する

具体的には（株）キラキラ雲南への一部事業委託（クラブ活動、指導者研修、指導者バンク作成）を行った

【検討・運営会議の開催】（年3回）学校から地域への段階的移行について理解をすすめながら雲南市の状況を踏まえた上で、「学校と地域が協働・融合」して『生徒にとって魅力的で望ましい部活動のあり方』について検討し、受託事業の評価と検証を行った

### 3. 実践研究校における取組について

#### 3.1 実践研究校情報

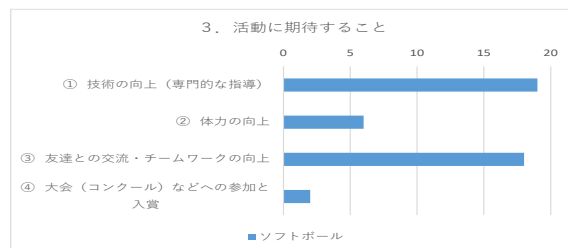
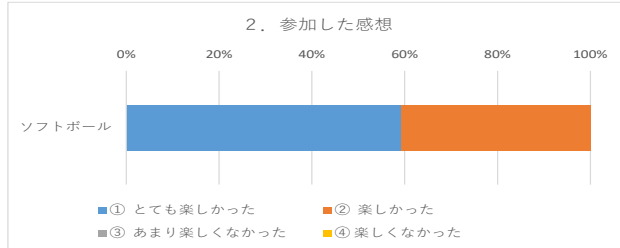
① 実践研究校数	域内全7中学校のうち、4校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	1部活
④ 種目	ソフトボール

《主な取組例（１）》…雲南市立大東中学校、加茂中学校、木次中学校、三刀屋中学校

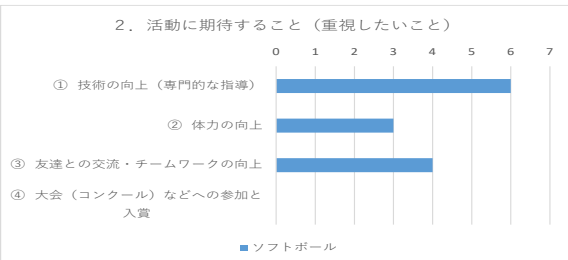
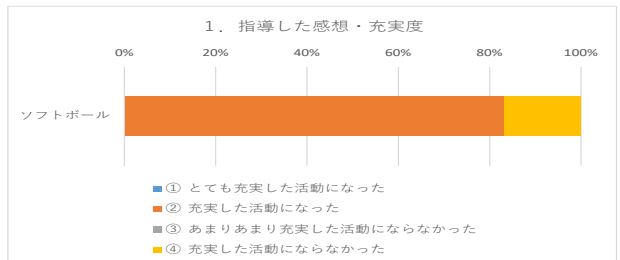
① 運営主体	(株) キラキラ雲南		
② 種目	ソフトボール	③ 参加者数	27人 (延べ196人)
④ 活動日	土曜日	④ 活動場所	文化体育館アスパル、三刀屋中ほか
⑦ 指導者人数	6人 (延べ33人)	⑧ 謝金単価	1人あたり1,000円/時間
⑨ 指導者属性	部活動の地域指導者2名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	今回は徴収なし		

3.2 参加者の声（生徒、指導者等）

◇参加生徒のアンケート集計



◇指導者のアンケート集計



3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- ・学校で教えていることと違うことを言われると生徒が混乱する →部活動顧問と地域指導者との連携・コミュニケーション強化
- ・用具の貸し出し等倉庫の施錠など会場校の顧問の負担が大きくなる →将来的にはクラブが管理する方向で
- ・日程調整が難しい（テスト・行事等）→各学校の顧問との調整で解決
- ・天候により屋外練習ができない場合の屋内練習場の確保 →市立体育館のピロティの活用でしのいだ
- ・練習会場への交通手段をどうするか  
 保護者輸送・・・保護者の負担が大きくなる  
 送迎バス・・・時間がかかる、費用負担は？→保護者輸送とタクシー輸送を併用して実証した

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

◇学校部活動（平日）と地域クラブ活動（休日）の在り方についての雲南市モデルの見通しが持てた

- ①学校部活動（平日）と地域部活動（休日）の連携モデル →休日の活動について地域が受皿（全部活・全展開）
- ②学校部活動（平日）を地域指導者が補完するモデル →指導者バンクの有効活用
- ③地域部活動（平日・休日）として実施および他（多）種目選択の機会を提供するモデル →地域クラブの育成

◇参加者および指導者アンケートを実施し、地域クラブ活動の魅力づくりの方向性が確認できた

◇指導者バンクの整備による指導者確保が順調に進んだ（市体育協会および市スポーツ少年団の指導者の理解と協力）

4.2 地域移行における今後の課題と対応

<p>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォームの強靱化</li> </ul>	<p>【受け皿団体の確保方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域クラブの育成</li> </ul>
<p>【指導者の確保方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者バンクの充実</li> </ul>	<p>【困窮世帯への支援方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きの検討課題（就学援助家庭への部活動補助を参考に）</li> </ul>
<p>【地域移行の自走化に向けた方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォームと地域クラブへの支援と指導助言</li> </ul>	<p>【地域特有の課題への対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通網（市民バスとスクールバスの効果的運用・利用）</li> </ul>

自治体名	美郷町教育委員会 担当課：教育課      電話番号：0855-75-1217
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	2校	② 生徒数	114人	③ 部活動数	7部活
--------	----	-------	------	--------	-----

1.2 地域における現状・課題

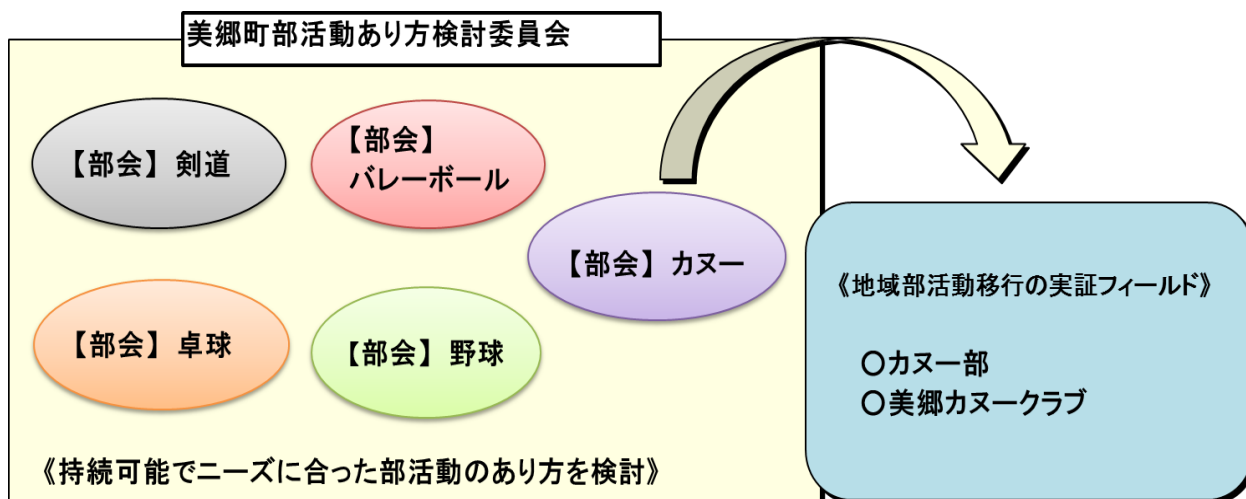
① 邑智中学校にはカヌー、剣道、野球、女子バレーボールの4つの運動部活動があり、全校生徒の69.9%が所属している。（※その他、吹奏楽部22.9% 無所属7.2%）このうちカヌー、バレーボール、野球については地域指導者が技術指導を行っている。大和中学校には剣道、卓球の2つの運動部活動しかなく加入率は100%で、卓球部を地域指導者が指導している。文化部がないために運動が苦手な子どもたちもやむなく運動部に所属している。両校とも、教員数が限られている中で部活動を指導できる教員を確保していくことは難しく、競技経験のない教員が顧問として関わっていくことには限界がある。また、平日の夕方に指導できる地域指導者を確保していくことも厳しい状況にある。邑智中学校のカヌー部については、専門的な指導ができる教員は皆無であり、創部当初から地域指導者が運営に深くかかわってきた。既存の部活動の中では、地域移行の可能性が高いスポーツである。

② 生徒の多くが小学生のときにスポーツ少年団で活動をしているが、生徒が希望するスポーツが既存の部活動とマッチしないことが多い。そのため、専門的な指導を求めて町外の中学校へ進学する子どもたちが増加し、生徒数の減少とともに、今後既存の部活動を維持していくことすら困難になると予想される。持続可能で、子どもたちや保護者のニーズに合ったスポーツ活動のあり方について、美郷町全体で検討する必要がある。

1.3 実践研究における取組目標

- ・移行する部活動数：1      ・移行を検討する部活動数：4
- ・地域部活動の実施期間：毎週土曜日
- ・練習会場への送迎は教育委員会が行う

1.4 実践研究の運営体制



【関係団体一覧】

- ・美郷カヌークラブ：部活動指導、指導者のサポート、部活動のあり方検討
- ・美郷町体育協会：部活動のあり方検討、地域移行の検討
- ・スポーツ少年団（剣道、野球、バレー、卓球）：部活動のあり方検討、地域移行の検討
- ・小中学校PTA：部活動のあり方検討

## 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

- ・「部活動検討委員会」の開催
- ・部活動（地域移行を含めて）に関するアンケート
- ・中学校部活動において地域移行の実証研究

## 3. 実践研究校における取組について

### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	2校
② 実践研究に取り組んだ部活動数	6部
④ 種目	カヌー・剣道（2校とも）・バレー部・吹奏楽部・卓球部

#### ≪主な取組例（1）≫…美郷町立邑智中学校

① 運営主体	邑智中学校カヌー部		
② 種目	カヌー競技	③ 参加者数	11人
④ 活動日	土曜日	④ 活動場所	美郷町カヌー練習場（江の川）
⑦ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	不明
⑨ 指導者属性	美郷カヌークラブ構成員（邑智中会計年度任用職員を兼務）		
⑩ 参加会費の有無・金額	不明		

#### ≪主な取組例（2）≫…美郷町立大和中学校

① 運営主体	大和中学校剣道部		
② 種目	剣道	③ 参加者数	6人
④ 活動日	土曜日	④ 活動場所	大和中学校体育館武道室
⑦ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	不明
⑨ 指導者属性	スポーツ少年団指導者		
⑩ 参加会費の有無・金額	不明		

### 3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

- ・部活動（地域移行を含めて）に関するアンケート実施

①実施期間 令和4年7月14日(木)～22日(金)

②対象者数

(a)小学校保護者（町内小学校4年生以上の児童がいる保護者世帯数）

(b)中学校保護者（町内中学校保護者世帯数）

(c)中学生生徒（町内中学校生徒数）

(d)中学校教職員（養護・事務・技術員を含む）

③アンケート結果概要（アンケート結果からの考察より）

(a) 小学校保護者

スポ少や文化的活動についての関心は高く、地域活動に対して高い関心はある。反面指導者不足については不安に感じている人も多い。休日部活動の地域移行について判断できる人は少ないが、指導者不足が解消されないまま地域移行が進んでいくと保護者の不安は高くなっていくと思われる。

(b) 中学校保護者

部活動についての関心は高い。反面顧問教員の負担や専門的に技術指導できる顧問不足については不安に感じている人も多い。休日部活動の地域移行について判断できる人は少ないが、指導者不足が解消されないまま地域移行が進んでいくと保護者の不安は高くなっていくと思われる。

(c) 中学生生徒

部活動を通じ学校生活の中でやりがいとして感じている生徒は多いと思われる。ただし部活動を通じて指導してもらえる人は必ずしも学校の先生とは限らないと思っている生徒の割合も高く、生徒にとっては「休日部活動の地域移行」について環境が整えば対応は問題ないのではないかと思われる。



(d) 中学校教職員

専門的技術指導ができる教員不足や教員の負担増大など、学校としての部活動自体のあり方が課題となっている。また教職員全員が「仕事が多用で思うように指導できない」「自分の研究や趣味の時間等の妨げになる」など部活動の指導に何かしらの悩みを持っている。このことより教職員の負担減や教員不足の為に、休日部活動の地域移行は前向きに取り組み必要性はあるように思われる。  
※詳細は別添のアンケート結果及び考察を参照

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

- (a)指導者の確保と運営面での協力者の確保が難しい
- (b)生徒が体調不良になった場合の対応を誰がするのか
- (c)練習内容を学校と地域でどこまで共通理解・意識統一させるべきか

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・中山間地の美郷町にとって、部活動は子どもたちのスポーツ活動を支える重要な存在である。
- ・休日部活動を地域移行するための指導者や地域の受け皿となる団体が不足している。
- ・教員の働き方改革（時間外勤務の削減）が大きな目的として掲げられており、教員個々のアンケート調査では、部活動に対して負担感を抱いていることがわかる。しかし、その一方で、部活動を生徒指導の場と捉える考え方も根強くあり、また、子どもたちや保護者からの期待に応えたいという思いから、学校側が部活動を手放せない実態がある。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

<p><b>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</b></p> <p>令和5年度に各中学校校区で設置される「学校運営協議会」において、部活動自体のあり方について各校区において検討する。</p>	<p><b>【受け皿団体の確保方策】</b></p> <p>検討委員会の各部会においてカヌー、剣道、卓球については、地域団体が積極的に関わる姿勢を示しているため、土日の活動を小・中・高・一般の活動の場として展開していくことも考えられる。また美郷町体育協会と連携して総合型スポーツクラブの設立も検討する。</p>
<p><b>【指導者の確保方策】</b></p> <p>島根県の方針に沿って現状の部活動体制を維持しつつ、部活動指導員の配置や地域指導者の確保に取り組む。</p>	<p><b>【困窮世帯への支援方策】</b></p> <p>現在のところ対応策を検討はしていない。</p>
<p><b>【地域移行の自走化に向けた方策】</b></p> <p>現在のところ対応策は検討していない。</p>	<p><b>【地域特有の課題への対応策】</b></p> <p>カヌーの環境づくりと人の育成を行うために中・高連携を行い、2030年に島根県内で開催される国スポ出場候補の強化を行う。</p>